



# だっこするよ

2022年6月

社会福祉法人茂原高師保育園  
北区立赤羽台保育園

園長 奥戸 昌子

人間って面白い！生きるって面白い！を目指して

6月を迎え、街のそこそこに紫陽花が咲き始めました。4, 5歳組は、田んぼ（赤羽自然観察公園）でどろんこ遊びを楽しみました。泥の感触が気持ちよくて、この後、徐々に飛び込む子どもたちも…。さあ、梅雨入り間近、熱中症に気を付けて今月も健康に過ごしていきます。

先月の懇談会は、保護者の皆様と直接お話が出来てとても嬉しく思いました。我が子自慢を紹介する場面やお子さんの名前の由来など、ママやパパの顔がほころんで、とても温かな時間となりました。お忙しい中、沢山のご参加有り難うございました。

また、0歳組から4歳組は、「異年齢保育への切り替え」について説明させていただきました。これからも直接お話する機会を作っていきたいと思えます。2階に異年齢保育への掲示板があります。年長組や乳児組の皆さんも是非、ご意見をお聞かせください。負担の少ない切り替えにしていきたいと思えます。プレについても検討しています。

開園からの6年間、子どもたち、そして、保護者にも職員にも恵まれて、どの子どもも安定して育ち合ってきた手応えがありました。保育が安定してきた今だからこそ、異年齢保育にチャレンジしたいと思いました。子どもたちが育つ権利を保障して、未来へ向けて保育を切り替えていきたい。子どもたちをもっと人間らしい群れで育てたい。子どもの「発達」を大人からの評価の目ではなく、多様な他者との関わりから「発達」を引き出したい。ありのままの「自分」らしさをそれぞれが大切に合える集団生活ができたらそれは、自尊心につながるのではと考えました。前任の園では、開園から異年齢保育を行い、異年齢保育を希望されて入園する保護者の方もいらっしゃいました。子ども同士が相手を受け入れながら生活する異年齢保育、子どもへのデメリットはありません。大人は協働していく力が必要です。

この子たちが社会で活躍し始める20年後を思うと、21世紀はこれまで生きてきた知恵が活かさないVUCA(予測不可能)な時代と言われています。想定外のパンデミックやウクライナ侵略戦争もそうです。日本は、人口減少と少子高齢化は歯止めがきかず、格差社会、子どもの貧困など…安心の未来とは言えません。私は、未来がどんな世界であっても、身近な人たちと手を繋いで、幸福な人生を歩んで欲しい。様々な利害を乗り越えて、誰もがあなたらしく生きて欲しいと願わずにはられません。異年齢なのか、同学年なのか、正解は分かりません。内面に育つ力(非認知能力)は見えにくいですが、勿論、同学年保育も年齢にあった幼児教育を行います。その点は、これまでと変わりません。行事や活動は、子どもたちの意見を聞きながら、子どもたち自身が考え、話し合っ、創造していく活動です。同学年で体験する意義も今まで以上に深まると思えます。縦にも横にも斜めにも関わり合っ、ましよう。

汐見稔幸氏東京大学名誉教授は、その著書に「これからは、ダイバーシティ、多様性を尊重し合い、共生していく力が必要。そして、インクルーシブ教育、違いがある子どもたちが一緒に生活することで、人間は、より互いを尊重し合い、支え合う。お互いの存在意義が理解できる…均一が豊かさではない。横割の学年制は、教師が効率よく教える為、競わせるために都合がよかった。学校でも集団を均一にしないオルタナティブな学校が出てきた。多様な関係の中で子どもの心の育ちや学びを促進していく力はとても大きい。大人の役割は、「人間って深いし、面白い」ということを見いだす力をつけることである。」と書かれています。「教えから学びへ」河出新書

子どもたちの成長・発達は、それぞれ違います。ゆっくりと大人になればいいのです。私は、「人間って面白い！生きるって面白い！」と思える人間の関わりこそが目指す保育だと感じます。写真は、どろんこ遊びの様子です。